

物流連 ニュースリリース

## シンポジウム「SCMの進展と物流業の役割」を開催

当連合会は、平成16年3月8日(月)、東京大手町の経団連会館国際会議場において、政策・広報委員会(委員長 栗林 貞一 (社)日本物流団体連合会会長)と経営問題委員会(委員長 上野 孝 上野トランステック(株)代表取締役CEO)の共催で、シンポジウム「SCMの進展と物流業の役割」を開催いたしました。

これは調達から生産、消費、そしてリサイクルにいたる経済の諸活動に深く根をおろしている SCM の実態を明らかにするとともに、物流業に何が求められているのか、運賃・料金の設定を含めた新しいビジネスモデルについて考えることを目的として開催したもので、会員事業者をはじめ物流事業者、荷主事業者、行政関係者等、200名余という大勢の聴衆が参加されました。

開会にあたり主催者を代表しまして栗林会長から、「今、物流業界においては、さらに減少すると見込まれている貨物輸送量、安全対策・環境対策などの強化によるコストアップ、運賃・料金の問題など多くの課題を抱えている。このような状況の中で、物流企業と荷主企業との間で良好なパートナーシップを形成することがお互いにとって極めて重要で、その一つの形がSCMである。相互の信頼関係を前提としたこのシステムは現在すでに相当普及しているが、今後の物流のあり方を考える上で大きな示唆を与えてくれるものと思われ、本日のシンポジウムが荷主企業と物流企業双方にとって一層良好な関係を構築するための一助になることを願いたい。」旨のあいさつがありました。

続いて第一部として、早稲田大学商学部教授の杉山雅洋氏より、「社会的共生と物流」をテーマに基調講演がありました。

その要旨は次の通りです。

近年、地球環境問題、地域環境問題、グローバル化、規制緩和、デフレの到来等、経済・社会環境は大きく変化しており、企業経営効率化のひとつの手法として SCM の導入は不可避の状況にある。

SCM の進展の過程は、部分最適から全体最適への過程であるが一般均衡の解法発見は難しく、合成の誤謬もある。また、SCMでは情報の共有化、需要予測の共有化が提唱されるが、共有化以前の段階として組織間での情報とは何か、需要予測そのものに不可避免的に生ずる不確実性が課題とされないのか、そしてSCMの利点の活用と課題の克服の可能性を如何に調和させていくべきかが課題である。

さらに、SCM においては、サービスに見合った費用、適切なコスト設定が消費者、荷主、物流事業者の共生にとって不可欠なものであろうと思われる。

そして第二部として、行政、荷主事業者、物流事業者によるパネルディスカッションが行われました。パネリスト、コーディネーターは次の通りです。

(パネリスト)

- ・坂場 正保 氏 国土交通省 政策統括官付政策調整官
- ・鎌田 利弘 氏 味の素(株) 理事 物流企画部長
- ・松本 忠雄 氏 花王(株) 執行役員 ロジスティクス統括部門
- ・田村 周三 氏 川崎近海汽船(株) 常務取締役 内航第二部長
- ・鈴木 淳雄 氏 西濃運輸(株) 専務取締役
- ・若林 宏 氏 日本通運(株) 常務執行役員

(コーディネーター)

- ・杉山 雅洋氏 早稲田大学 商学部 教授

このパネルディスカッションでは、坂場氏から SCM には情報の一元化、共通化が必要である。また中小の物流事業者が3PL 事業に参加できるような環境作りをしている。さらにセキュリティ問題も重要であるなどの発言がありました。

鎌田氏からは、SCM 時代への対応として、まず部門最適から全社最適へ取り組み、そこから調達側さらに販売側への発展というスタイルで取り組んでいること、また物流コードの標準化が急務であるなどの発言がありました。

松本氏からは、SCM 構築にあたっては需要予測が重要であるが、不確実といわれるものを客観的需要予測の導入によって約4割の在庫減、約6割の欠品減につなげたこと、また物流事業者との真のチェーン構築はこれからであり、そのためには技術開発や研究が必要であるなどの発言がありました。

田村氏からは、SCM の進展にはチェーンの平準化、単純化が必要で、一方で情報のパイプは太くする必要がある。そのためには船だけでは不可能で、道路、港湾も含めた「三位一体」の取り組みが必要であるなどの発言がありました。

鈴木氏からは、エンドユーザー側の要請で物品の所在に関するニーズが高まりGPSを活用した所在情報の提供に取り組んでいること、また商品の鮮度が求められる時代となり、路線便での時刻表作成や都内での周回便の設定などによって時間を決めることができる取り組みをしているなどの発言がありました。

若林氏からは、SCM の進展により特に3PL 型の業務では物流費の変動化への対応をしていること、危機管理への対応も必要で9.11テロを受けて米国では在庫を積み増すような動きがあること、週内波動が大きい現状からある種の平準化をしないと全体最適化ができないのではないかなどの発言がありました。

そして、これらの議論を受けて最後に杉山氏が、SCM を効率的に進めていく上で立場の差はあってもかなりの共通項がある。今日の議論を1つのベースとして引き続き対話の場を持ち、お互いがWIN - WIN になる関係にしていくことが必要だろうと総括されました。

以上